

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月15日

【評価実施概要】

事業所番号	871100228		
法人名	有限会社 豊玉		
事業所名	グループホーム さくらんぼ		
所在地	常総市豊岡町乙3587 (電話) 0297-24-0505		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年9月13日	評価確定日	平成19年11月30日

【情報提供票より】 (平成19年8月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤8人, 非常勤8人,	常勤換算12.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	～	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,500円	その他の経費(月額)	0円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000円)	有りの場合 償却の有無	有(5年)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,365 円		

(4) 利用者の概要 (8月28日現在)

利用者人数	13名	男性 3名	女性 10名
要介護1	0	要介護2	3
要介護3	9	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 82歳	最低 60歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	水海道西部病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者はこれまでの人生で培った経験の中から地域の人々に喜ばれる、また、地域に恩返しをしたいとの思いでホームを設立している。
ホームでは、利用者の入浴、食事、排泄が円滑に行えるよう、支援することを基本に考えるとともに、自分のやりたいことや好きなことに取り組めるよう、支援している。
また、地域で困っている方々の相談に乗ったり気軽に遊びに来る場となるよう、働きかけている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価結果を利用者の家族、管理者や計画作成担当者に周知するとともに、広報紙の配布や意見箱の設置などできるところから改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を運営者、管理者及び職員全員で検討しているが、外部評価や自己評価の意義等について職員に周知するまでには至っていないので、自己評価、外部評価を実施する意義等について、職員に周知徹底し、更なるサービスの向上に努めることを提案する。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>第1回の会議を開催してホームの状況等を説明している。 市の担当者とは、電話や訪問などにより連絡をとっている。 また、消防署や警察署、保健所等を訪ね消防訓練や感染症に関する対応方法等を相談している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームから家族に連絡するなど、意見や要望などを聞けるよう、関係づくりに取り組んでいる。 ホーム以外の外部機関にも意見などが言えるよう、重要事項説明書に市の介護保険課を明示している。 月に1度は家族が訪問するよう、働きかけており、訪問時に利用者の暮らしぶりや金銭の報告を受けている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所の人に声をかけたり、保育所の園児と利用者が交流できるよう、働きかけている。 また、広報紙を作成し、配布している。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自立した生活が困難になった利用者に対し、家庭的な環境の下で日常生活の介助を通じて安心、安全と尊厳のある生活を営むことを支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は毎朝のミーティングや打ち合わせで利用者の好きなことややりたいことを実現するための取り組みや安全に関することについて、ケースを交えて話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の人に声をかけたり、保育所の園児と利用者が交流できるよう、働きかけている。 また、広報紙を作成し、配布している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を利用者、家族、管理者や計画作成担当者に周知するとともに、広報紙の配布や意見箱の設置など出来る事から改善に取り組んでいる。 自己評価を運営者、管理者及び職員全員で検討しているが、外部評価や自己評価の意義等について職員に周知するまでには至っていない。	○	自己評価、外部評価を実施する意義等について、職員に周知徹底し、更なるサービスの向上に努めることを提案する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回の会議を開催してホームの状況等説明をしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、電話や訪問などにより連絡をとっている。 また、消防署や警察署、保健所等を訪ね消防訓練や感染症に関する対応方法等を相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度は家族が訪問するよう、働きかけており、訪問時には、利用者の暮らしぶりや金銭の報告をしている。 また、面会が滞っている家族には、管理者が書いた手紙や広報誌を送付し、報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームから家族に連絡するなど、意見や要望などを聞けるよう、関係づくりに取り組んでいる。 ホーム以外の外部機関にも意見などが言えるよう、重要事項説明書に市の介護保険課を明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者が職員採用時にホームの取り組み等を話すとともに、採用後は利用者と職員が仲良く助け合うよう、配慮している。 職員の配置は、ユニットや利用者毎の担当制ではなく、全ての職員が全ての利用者に関わりを持っている。	○	現段階では利用者数も少なく現在の方式で良いと思われるが、利用者が定員に達した時には職員の関わり方について考慮することが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を職員の段階に応じて知らせ受講させるとともに、受講後は結果を報告している。 また、内部でケース検討会を定期的実施するとともに、書籍の購入やインターネットによる情報を収集して周知している。	○	職員全員が緊急時に適切な手当ができるよう救命、救急法の受講や災害に関する訓練などを継続的に取り組むことを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国、茨城県のグループホーム連絡協議会に加盟し、研修会等に参加している。 また、市内の同業者や病院などにパンフレットを配布するなど、交流を図る機会を作っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用するにあたり体験入居は実施していないが、本人や家族が必ず見学に来てホームでの生活の様子を見ている。 また、職員が自宅や病院を訪問し、利用者の状態や生活歴などを把握している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が食事の準備や畑作業などの得意なこと、できる事を把握しており、気遣いやねぎらいながら共に生活している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が普段から馴染みの関係を築いており、利用者が気兼ねなく思いを伝えられるように努めている。 また、ボランティアが訪問し、利用者の希望や意向を聞き職員に伝えている。	○	利用者や家族から今までの生活や意向などを聴取しているので、ホームの生活に反映できるよう、取り組むことが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成担当者は、日々の利用者や家族との関わりの中でホーム生活の意見や希望を聴取するとともに、職員の意見を聞いて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の心身状態に変化があった時は、その都度見直しを行い連絡ノートに記録しているが、期間満了時、あるいは見直した事項を介護計画書に反映するまでには至っていない。	○	介護計画の見直しは、短期、中期などの期間満了時の見直しに取り組むとともに、随時の見直し時にも介護計画に記録することが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望や要望などの相談に乗るなど、ホームとしてできる事の支援をしている。 近所の人に声かけや訪問するなどにより、ニーズを把握するとともに、ホームが地域の相談所として利用できるよう、働きかけている。	○	市と相談しながら近隣の理解を得て、デイサービスやショートステイの構築を考えることを提案する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでは、本人や家族の指定するかかりつけ医で継続して医療を受けられるよう、支援している。 また、歯科医が定期的に往診をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケア（人生の最期を迎えるに当たってのケア）について利用者、家族、医師と話し合うとともに、利用者が望む支援ができるよう、取り組んでいるが、対応方針を共有するまでには至っていない。	○	利用者が重度化した場合や終末期の対応について、職員や家族、協力医療機関などと十分に話し合い、職員や家族に対応方針の周知を図る取り組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者を人生の大先輩であるという思いを常にもち、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない拘わりをしている。 また、記録等については事務所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活歴の把握を心がけており、折り紙、野菜作り、レクリエーション、リハビリ体操などを実施している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者と一緒にテーブルを囲み、介助や会話をしながら食事をしている。 また、配膳や下膳を利用者に手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが、利用者の希望する時間に入浴している。 また、シャワーはいつでも浴びることができ、また、利用者の状態によって清拭を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や能力を生かせるよう、洗濯物たたみ、食事の準備、花の水撒きなどの役割作りをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩はもとより、買い物等の外出、ホーム周囲の植物や野菜の栽培、水遣りなど戸外に出かけられるよう、支援している。 また、春には、花見に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量が多い道路に面しており、利用者の安全面を考えて自動ドアに鍵をしているが、共用空間からウッドデッキには自由に出られるようにしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に備え食糧や水などを備蓄している。災害対策マニュアルを作成し、消防訓練を消防署との連携により実施しているが、利用者が参加するまでには至っていない。	○	利用者の中には訓練を行うことによって、パニックになることもあるが、災害時に適切な非難ができるよう、工夫しながら繰り返し実施することが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者が美味しく食べられるよう彩りの工夫や栄養のバランスを考え、野菜等を豊富に使った料理を提供している。 また、食事量のチェックを毎食行っている。	○	献立や食事の彩りに工夫するばかりでなく、保健所の栄養士等にカロリー計算などの栄養指導を受けることを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は常に清潔を心がけるとともに、不快な臭いがないよう、換気などを行っている。 また、ホールに観葉植物やソファを設置するとともに、ウッドデッキにも植物を栽培している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用前の環境を継続させるため、椅子、布団、ベット、写真、壁掛けなど、使い慣れた物品を持ち込んでいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。